令和８年度

第１回独立行政法人地域医療機能推進機構

宇和島病院　地域協議会議事録

【日 時】令和８年 11 月 17 日（火）16:00～17:00

【場 所】ＪＣＨＯ宇和島病院 ３階　講堂西

【議 題】

１．令和７年度の病院運営状況について

２．病院の重点的な取組（トピックス）に関する報告

①発表「新たな地域医療構想における当院リハビリの取組について」

②発表「F 氏のケアについて倫理的観点から考える～職員の意識の変化～」

３．意見交換・質疑応答等

【出席者】

松 本 広 範（患者代表）

松 本　孔（宇和津校区連合自治会長）

冨 永 俊 則（宇和島市保険健康課長）

金 子 政 彦（市立宇和島病院長）

茎 田 仁 志（くきた内科クリニック院長）

渡 部 昌 平（ＪＣＨＯ宇和島病院院長）

矢 野 達 哉（ＪＣＨＯ宇和島病院副院長）

佐々木　修（ＪＣＨＯ宇和島病院副院長）

清 家 和 子（ＪＣＨＯ宇和島病院看護部長）

佃　達 也（ＪＣＨＯ宇和島病院事務長）

伊 藤 恵 里（ＪＣＨＯ宇和島病院リハビリテーション科診療部副作業療法士長・発表者）

松 浦 洋 美（ＪＣＨＯ宇和島病院附属介護老人保健施設介護支援専門員・発表者）

伊 藤 博 一（ＪＣＨＯ宇和島病院総務企画課事務長補佐（総務企画））

山口 真由美（ＪＣＨＯ宇和島病院総務企画課事務長補佐（経理））

【議事概要】

１．令和７年度の病院運営状況について

JCHO の中期計画に基づく当院の目標及び取組状況について、以下の項目について報告を行った。

・病院機能評価の認定について

・逆紹介率及び救急搬送件数について
・地域住民を対象とした健康に関する研修・教育の実施状況について
・訪問看護ステーションの特別管理加算の算定状況について
・患者利用者の満足度調査について
・特定行為に係る看護師の研修受講状況について
・初期研修医の受入状況について
・愛媛大学医学部の地域枠医師の在籍状況について
・骨密度測定装置の更新について
・経営に係る進捗状況（収支、病院の 1 日平均患者数・患者 1 人 1 日当たり診療収入、附属老健の 1 日平均入所者・通所者数等）

［意見］

（外部委員）経常収支率が100%を超えていることについて非常に素晴らしいとの感想が述べられた。また、救急搬送件数の目標設定の考え方、救急搬送患者の入院率及び新規入院患者数に占める救急搬送経由の入院患者の割合について質問があった。

（病院側）　救急搬送件数については、前年度の実績を上回ることを基本目標として設定していること、救急搬送患者の入院率は実績で 56～60%程度であることを説明した。また、新入院患者数に占める救急搬送で入院した患者の割合については、手元の資料では即答が困難である旨を回答した。

２．病院の重点的取組（トピックス）に関する報告

①「新たな地域医療構想における当院リハビリの取り組みについて」

上記のテーマについて発表を行った。

［意見］

（外部委員）VF 検査の対象となる疾患や脳血管疾患患者の回復傾向、回復期病床の病床利用率及び平均在院日数について質問があった。また、将来的に過疎地域において回復期病床が減少することへの懸念が示された。

（発表者）　VF 検査については、フレイルや頭蓋内疾患など、摂食が困難な患者を幅広く対象としていること、脳血管疾患の患者は回復が早い傾向にあることを説明した。また、回復期病床については、ほぼ満床で稼働しており、46～48 床程度で推移している旨を回答した。

②「F 氏のケアについて倫理的観点から考える～職員の意識の変化～」

上記のテーマについて発表を行った。

［意見］

（外部委員）約１か月半で本人の心を開くことができた素晴らしい取組であるとの評価があった。また、

職員が同じ方向性を持って取り組むための工夫や、ゴール設定の考え方について質問があった。

（発表者）　特別なノウハウがあったわけではなく、通常のカンファレンスの時間を 30～35 分程度に延長し、何度も話し合いを重ねたことが取組につながった旨を説明した。

（外部委員）急性期医療とは異なり、明確なゴールを設定せずに関わっていく老健のアプローチが非常に新鮮であったとの意見があった。

３．その他（意見交換・質疑応答等）

（外部委員）家族が骨折の治療及びリハビリを経て、以前よりも元気な状態まで回復したことについて、感謝の言葉があった。また、病院の年間行事予定や研修の案内について、自治会総会等が開催される時期（４月頃）に合わせて早めに情報提供してもらえれば、回覧板等を通じて地域住民に積極的に周知し、協力することができるとの提案があった。
さらに、病気になってから通院するだけでなく、予防医学の観点から、地域住民を対象とした健康サークルのような集まりや健康に関するアドバイスを受けられる場があるとよいとの意見があった。

（病院側）　地域住民を対象とした講演会（糖尿病教室や骨粗鬆症に関する講演等）を開催していることや、リハビリプールを活用した集団訓練を実施していることを紹介し、積極的に活用していただきたい旨を伝えた。

（外部委員）当院での膝の手術や治療、リハビリを経て、歩行機能が著しく回復したことについて感謝の言葉があった。また、リハビリプールの利用が習慣化しており、非常に良いと感じている一方で、夏場はプールサイドや待機場所が非常に暑いため、扇風機の設置など暑さ対策を講じてほしいとの要望があった。

（病院側）　プールの夏場の暑さ対策については、扇風機の使用等も含め、快適に利用できるよう改善を検討する旨を回答した。

（外部委員）宇和島市の保健事業や研修において、病院側が様々な面で協力していることについて、感謝の言葉があった。

（外部委員）市内開業医の立場から、ここ数年で内科系の開業医が複数閉院しており、70 代・80 代の高齢の開業医が多数を占めている現状について説明があった。また、5 年後には地域の医療提供体制が危機的な状況になることが懸念されることや、若い医師が宇和島で開業したがらない現状について問題提起があった。

（外部委員）2040 年を見据え、宇和島医療圏における医療提供体制について、今後の課題を避けて通ることはできないとの意見があった。特に、整形外科の二次救急体制については、各病院間での役割や連携が今後の課題になると考えられること、また、高齢者人口が増加する一方で、近年は受診者数が減少傾向にあり、病院経営にも影響を及ぼしていることが指摘された。

さらに、今後、回復期リハビリ病床や慢性期病床が減少する可能性があり、退院後の在宅医療を支える開業医の診療体制も弱まっていることから、各病院が個別に存続を図るのではなく、宇和島圏域全体として今後の医療提供体制をどのように維持していくか、早急に検討していく必要があるとの意見があった。

（病院側）　地域医療構想に関する会議等においても、今後議論していくべき重要な示唆を含む意見であるとして、謝意を伝えた。

なお、次回の地域協議会は、令和９年２月後半から３月上旬の開催を予定している旨を案内した。

以上をもって本日の議事をすべて終了し、17 時 00 分に閉会した。